安コレ★お宝さんぽみち

～地域にお住まいの安田勝寿さんのコレクションの中から、八戸ゆかりの逸品を紹介するコーナーです～

現代の子どもたちにとってゲームや携帯電話が必修科目であるように、昭和三十年代から五十年代に子ども時代を送った男子にとって、プラモデルは必修科目であった。

当時は、広くプラモデルを扱っており、化粧品店、釣り具店、文房具店、駄菓子店などでも置いてあったほど。プラモデルは価格帯が広い商品なので、数十円から数千円のキットが存在していた。

特に、近所の駄菓子店などで売られていた「宇宙戦艦ヤマト」や「ロボダッチ」などの数百円で買える手ごろな値段のプラモデルが、多くの子どもたちに支持された。

高度経済成長だった四十年代から五十年代にかけて自家用車を持つ家庭が増え、車のキットも激増する。当時発売された車のキットの多くは、モーターライズやゼンマイ式で動くものが多かった。その中でも、昭和五十年から週刊少年ジャンプで連載された「サーキットの狼」は、スーパーカーブームの火付け役となり、少年たちの心を鷲づかみにした。

そのほかに、戦車のタミヤ、飛行機のハセガワ、艦船のニチモと呼ばれた各メーカーは得意分野で存在感を出し、数々の名作を世に送り出して子どもたちを楽しませてくれた。

そして、一九八〇（昭和五十五）年七月バンダイから発売された「ガンダム」のプラモデルが脅威的なヒットを飛ばす。かつて業界が経験したことのない社会現象であった。それから四十年近くたった今もガンプラは生産され続け、その生産累計は五億個に迫るという。

私も小学生の頃「タンタン」や「丸光」に並び、整理券をもらって買い求めた記憶がある。しかし、あまりの人気に目当てのガンダムは毎回買えず、二番手をしぶしぶ買った苦い思い出が残っている。

記事を書きながら過ぎ去りし日々の記憶が鮮やかに甦り、セメダインまみれの不器用な手先の感覚と匂いを、懐かしく思い出していた。

懐かしのプラモ大集合！

安田勝寿

経歴
- 青森県立郷土館協議会委員
- 八戸ペンクラブ理事

ピッカピカ☆おおそうじ

二月十五日(金)に、学校内の大掃除が行なわれました。

最初に教室の机を廊下に出しました。みんなで協力しあって運んだので、あっという間に教室が空になりました。次は、床の掃除です。ごみを掃いたあと、雑巾がけ。汚れのひどい所は『激落ちくん』を使って、キレイにしていました。六年生は今までの感謝の気持ちを込め、率先して取り組んでいました。

寒い中での大掃除、お疲れ様でした。

編集後記

☆★☆

毎日寒い日が続いておりますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。暖かな春がとても待ち遠しいです。

今年度も残すところ後わずかとなりましたが、みなさんにとってどんな一年だったでしょうか？　子どもたちは、先生方や地域の方々に支えられ学校生活を通して、とてもたくましく成長する事ができました。

春は子どもたちをひとつ大人にしてくれます。新たな環境に不安や戸惑いがあるかもしれませんが、子どもたちが元気に新年度を迎えられるように温かく見守りたいと思います。

（中村）